ある日の育児日記から

(60)

佐藤　和代

来年、圭は小学生になります。そろそろ小学校までの道を教えようと、散歩がてら学校へ行ってみることにしました。

圭は大はりきりで、「道、知ってるよ！」と私を先導。通りを渡り、路地を左に曲がり、広い道へ…あれれ？「圭、そっちは行き止まりよ」「ちがうの、いいの！」圭はにんまり笑って、空き家の庭にどんどん入って行きます。へいにつきあたると、へいの端の、有刺鉄線のすきまをねらってよじのぼり…こらこら！「だって、近道なんだよここ」私は有と一緒に回り道。へいの反対側に着くと、今度は駐車場を横切り、神社をぬけ、私道に入ります。やれやれ、誰に教えてもらったの？圭はすました顔で、「Rくん」。なるほど、近所の二年生の男の子かあ。

それにしても、まだこの辺にも、こんな道があるのね。私も小さい頃、近所の路地や抜け道に精通していたっけ。初めての道にふみこむドキドキワクワク、意外な所に出たときの驚き。自分だけの秘密の通路。あんな楽しい気分を、圭も知り始めたのね。

いっとき、私も子どもの頃にタイムスリップ。幸せ気分にひたって、さて、と気を取り直すのです。圭、ちゃんとした通学路も覚えましょうね！